

# 平成30年秋期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は平成30年秋期の取引動向の概要について紹介します。

## 1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

今期の全体取引量は約9.0万本で、前年同期（約10.7万本）より約1.7万本減少しました。

一般植木は対前年同期比112.7%と増加しましたが、株・玉物は73.9%、生垣用樹は87.1%と減少し、全体では83.9%となりました。

全体取引量は、平成21年以降続いていた減少傾向が28年は増加に転じましたが、前年から再び減少し、今期は初めて10万本を下回る取引量となりました。

台風24号が調査日前日（9月30日）に来襲したことも少なからず影響したものと思われます。

## 2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

### (1) 一般植木（12品目）

一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約1.9万本で、前年同期（約1.7万本）より約0.2万本増加しました。

自然形では、カシ類は減少しましたが、カエデ類、キンモクセイの増加に加えて、前年に激減したツバキが大きく増加して全体量を押し上げました。

仕立物では、減少傾向が続いていたイヌマキが増加に転じ、イヌツゲも増加しました。

### (2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約4.4万本で、前年同期（約5.9万本）より約1.5万本減少しました。

前年に大きく減少したイヌツゲは増加しましたが、サツキ・ツツジ類が大きく減少して全体量を押し下げました。

### (3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約2.7万本で、前年同期（約3.1万本）より約0.4万本減少しました。

生垣用樹の大半を占めるサザンカはほぼ横ばいでしたが、減少傾向が続くイヌマキは今期も大きく減少しました。

## 3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

平成20年から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）しました。

追加樹種を含めた取引量上位10品目に変化はなく、上位3品目の順位にも変化はありませんでしたが、大きく減少したツツジ類やイヌマキ（生垣用樹）が順位を下げ、増加に転じたイヌツゲ（株・玉物）やハナミズキ、ドウダンツツジが順位を上げました。

\*調査市場\*

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

福地植木生産組合（西尾市斉藤町）

図-1 秋期取引量の推移（単位：万本）

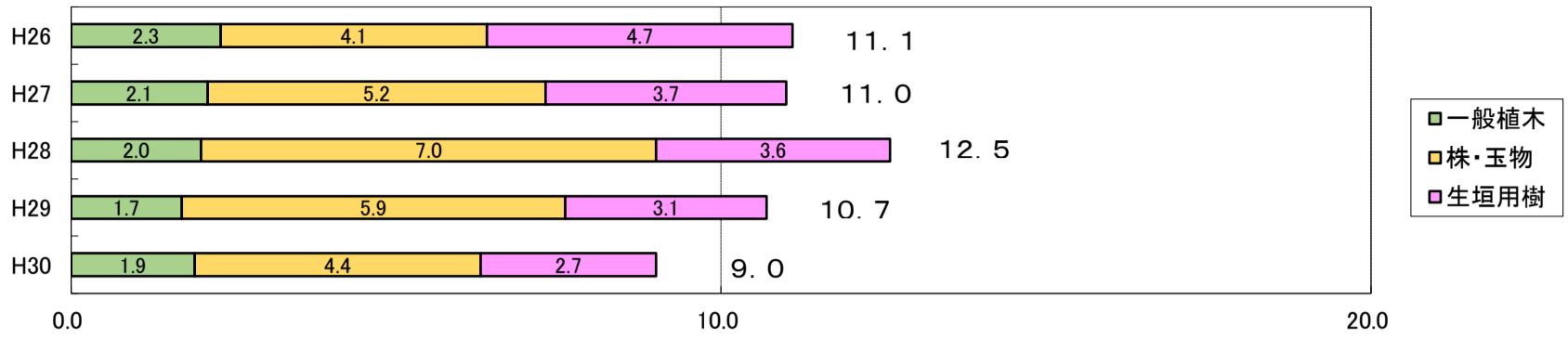


図-2 秋期取引量の区分別構成比（%）

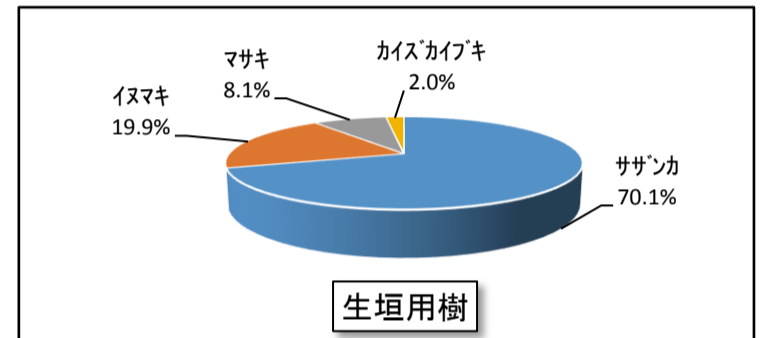
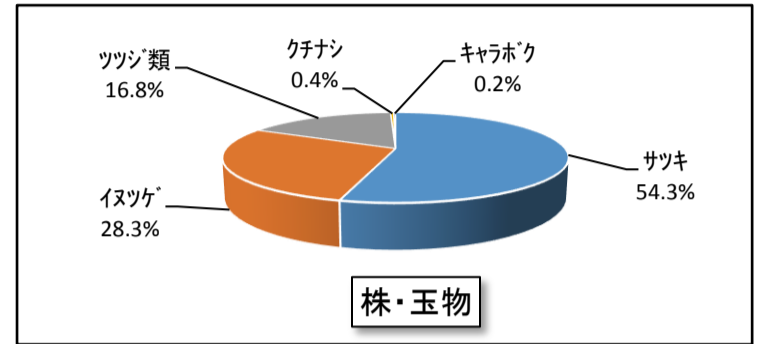
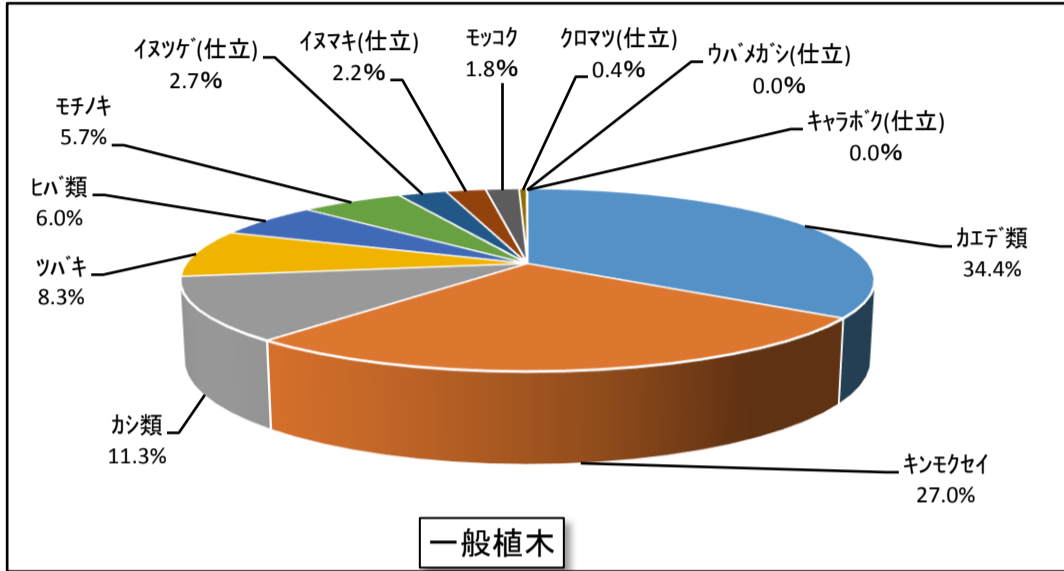


図-3 秋期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（%）

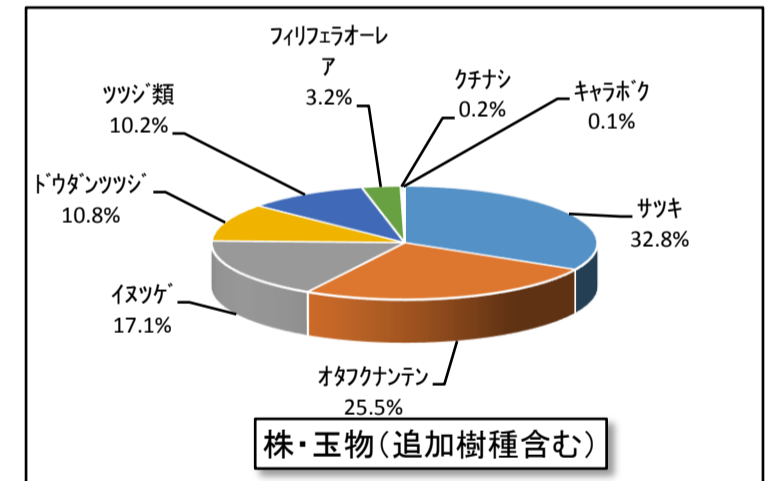
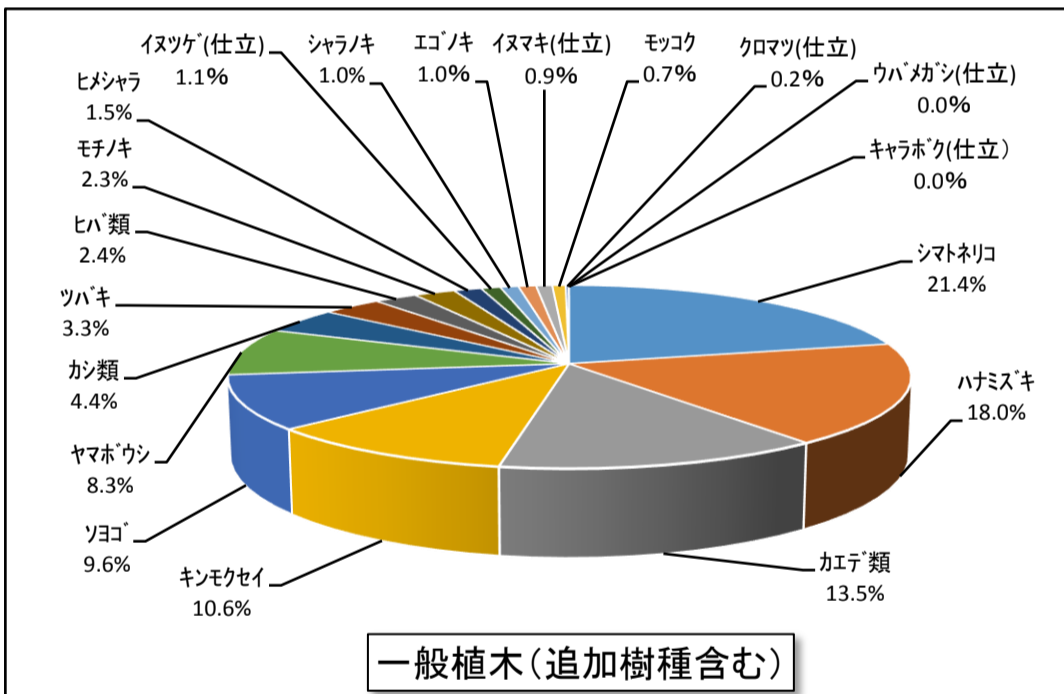


表-1 秋期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	平成28年			平成29年			平成30年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	↑	サツキ	株	...	サツキ	株	↘
2	サザンカ	生	...	サザンカ	生	...	サザンカ	生	...
3	オタフクナンテン	株	↑	オタフクナンテン	株	↘	オタフクナンテン	株	↗
4	イヌツゲ	株	...	ツツジ類	株	...	イヌツゲ	株	↗
5	ツツジ類	株	...	シマトネリコ	—	...	シマトネリコ	—	...
6	イヌマキ	生	...	イヌツゲ	株	↓	ハナミズキ	—	↗
7	シマトネリコ	—	...	イヌマキ	生	↘	ドウダンツツジ	株	↑
8	ハナミズキ	—	↑	ハナミズキ	—	↘	ツツジ類	株	↓
9	カエデ類	—	↗	カエデ類	—	...	カエデ類	—	...
10	ドウダンツツジ	株	↗	ドウダンツツジ	株	↘	イヌマキ	生	↘

前期比 ... : ±20%未満    ↗ : +20%以上40%未満    ↘ : -20%以上40%未満  
           ↑ : +40%以上            ↓ : -40%以上            — : データなし  
 区分    — : 一般植木            株 : 株・玉物            生 : 生垣用樹